

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0370500449
法人名	社会福祉法人 悠和会
事業所名	認知症共同生活介護 グループホーム「銀河の里」
所在地	岩手県花巻市幸田4-116-1 (電話) 0198-32-1788

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年9月13日	評価確定日	平成19年10月24日

## 【情報提供票より】(平成19年 8月 10日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 9 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	4 人

### (2)建物概要

建物構造	木 造り		
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分		

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷 金	有( 円) <無>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) <無>	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4)利用者の概要( 8月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	3 名	要支援2	名
年齢	平均 79.3 歳	最低 65 歳	最高 93 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	ゆかわ脳外科、藤巻胃腸科内科クリニック
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2ユニットのグループホームのほか、障害者授産施設とデイサービスが広い敷地内に建ち、職員はもとより利用者も自由に交流がなされている。自由に敷地内を歩くことができ、コースとして決まった道歩く利用者は、ご本人が納得するまで何時間も歩くことができる。それを問題行動とするのではなく自然な姿と捉え、時には時間を見計らい見守りをしたり、ともに散歩したりされている。また広範囲に移動する利用者にはGPSを利用していた時もあった。田植えや稲刈り、畑仕事など利用者から教わることも多く、共に生活している職員、グループホーム利用者全ての人々が本音で話の出来る場となっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	栄養士にメニューを提出したが、対応が遅れている。利用者の体重や艶など健康状態の観察もしている。また看護師からもミキサー食や糖尿病食についての助言のある。配食サービスも利用しているのでバランスも取れていると思うが、引き続き栄養士に見てもらおうとする。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	理事長、施設長をはじめ全職員で検討している。理事長は社会に開かれた施設として外部評価で調査員が訪問することは必要と理解はしているが、専門性やアドバイザー的な役割が出来るような調査員を望んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成18年7月16日より3ヶ月に1回運営推進会議が開かれている。評価事業の結果報告、行事予定等その都度話し合われている。また委員の要望によるホームページの更新により内容が豊かになった。運営推進会議の記録の執り方の工夫により内容の確認がスムーズに行われ、改善点などの結果が調査員から見ても明瞭になるのではないかとと思われる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月の「あまのがわ通信」には日常の写真がいっぱい載り、エピソードなど施設の営みや職員の豊かな表現による文章、日常のエピソードにより家族に伝わっている。また苦情に対してはどのような小さな苦情でも真摯に受け止め対応がなされているが、記録の経過や結果が記載されていない事により記録としての工夫が必要となっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣に家は少ないが、散歩している利用者へ声を掛けて下さったり、土木工事の人と顔馴染みになったりしている。またデイサービスの利用者や授産施設の関係者とも交流があり、各施設が小さな集落のような働きを持っているように思えた。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独特の経営信念・理念を持ち実践している。利用者の個性や能力を大切に支援されており、その中でも利用者の歩きたい気持ちを大切に、問題行動として捉えることなく何時間でも歩けるよう、試行錯誤され、それが日課となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者の理念が職員によく理解され、利用者の希望に添って支援している。また利用者、職員共に本音で付き合っている。利用者から「そんなに構えないで」と話され、飾らない言葉で、時には言い合いになってもそこから理解し、共感できることがある、とのことで利用者と職員の垣根の無い生活となっていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	収穫祭、盆踊り、夏祭り。介護予防教室、公民館活動等地域と交流もできている。同一敷地内に授産施設やデイサービスもあり、何かの行事のときには関係者だけでも250人ほどの出席者になることもあり、常に施設間の交流もあり小さな集落を形成しているようにも見えた。またよく歩く利用者は近所の人とも顔見知りになっている。自由に交流の出来る環境は素晴らしいと思えた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年は栄養士に栄養バランス等見てもらっていなかったため、今年度見てもらうよう献立表を提出したが、まだ返事は返ってきていない。利用者の体重や皮膚の艶等体調には考慮し、また糖尿病や嚥下障害のある利用者については看護師からも助言を受けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に一回もたれており、行事や評価等の報告がなされている。広く意見が聞かれ、委員の要望としてホームページの更新がされていないとの指摘があり、改善により以前よりホームページ等の内容に厚みがあった。		今後も、推進委員の皆さんの活発な意見を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム・デイサービス・在宅介護支援センター、地域包括支援センターと小地域ケア会議を実施してきたが、19年度より問題が生じたときに開催予定としている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の「あまのがわ通信」により、利用者の様子が写真・文章によりご家族に伝わる内容になっており、職員も自分の担当者について、日々感動したことや日常のエピソードなど話したくなる、伝えたい様子で感心する内容となっている。また現金出納帳や、体調の変化のあるときには適時ご家族に連絡がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談の有るときには理事長、施設長と共にご家族の話を聞くようにしており、またその苦情に対して対応がなされていたが、その処理対応の記録の整備が望まれる。	○	苦情や相談等のあったときには、その経過や結果が不明瞭となっている。書式等があれば受付から結果までの処理が分かりやすいと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	授産施設、デイサービス、グループホーム内での職員の異動があるが、異動により職員を利用者が訪ねて行くこともあり、生活の場の広がりとなっている様子で、調査中にも離れたユニットから利用者の訪問があったり、暑い日には涼しいデイサービスを訪問した。また、広い敷地内を自由に歩かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術講座、スキルアップセミナー、救命救急、リスクマネジメント等の研修を受講していた。また理事長はじめ職員も自分の意見として本音で話し合えることにより、自己研鑽がなされているようで、常に職員も成長し変われると、職員自ら話していた。職員が元気に仕事ができることにより、利用者も元気にのびのびと過ごされていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の研修会等県内外での研修に参加している。	○	実際、他のグループホームとの交換研修も一度なされているが、職員より他のグループホームとの交流や交換研修がもっとしたいとの意見があった。他事業所と比べることにより自分のホームの良さの確認やまた見直しにもなり、質の向上につながると思われる。今後も積極的な交流を持っていくよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスの利用者で月1度グループホームに泊まって馴染んで頂けるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個人の人生の中で抱えている怒り(認知症により自分でも言葉として表現できない年をとる悲しみや苦しみ怒り等)に対して、本音で向かい合うことにより人間としての共通理解や愛情を感じる。個々を大切に過ごしている。外に出たい思いに対し、歩ける環境があり、また職員の理解もあり歩きたい衝動が満足出来る事で、怒りがなくなるのは利用者にとっても重大な意味がある。これらの支援を大切に考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理事長、施設長、主任、担当職員による毎月一回の会議で一人一人の利用者について話し合いを持ち、夜の遅い時間まで活発な意見交換が持たれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の生活の様子が丹念に記録されている。ご家族が訪問時に読むことにより、写真とともに楽しみとなっている様子で、日常の生活が把握出来るようである。またプランの作成や日常の生活についても利用者・ご家族、担当職員と話し合い、相談しながら支援がされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度はプランの見直しをしているが、状態の変化のあるときには随時見直している。ご家族として歩いてほしいとの希望があったが、状態の変化により歩行が困難になり、立ち上がることを大切にされた援助に変更したことにより、利用者自身の表情や言葉が豊かになった。状態の把握により適切に介護がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	矢沢振興センター主催の山野草教室やコーラス、フィットネスなど利用者の希望により参加されている。慣れてきてホームから送迎だけの援助でも参加できるようになってきた。利用者の希望やいままでの生活習慣、能力に応じて地域に出かける支援を大切にしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族による通院のときには、ファックスでバイタル記録を送るなど病院へ情報提供がなされている。また職員が通院介助した時には通院時の状態の記録がある。家族が通院介助することにより、家族の絆の結びつきが深まると思われる。またバイタルの記録により医師との連携が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態によりご家族と話し合いを持ち、必要により在宅介護支援センターと連絡を取ったり、ご家族の希望に出来るだけ添いながら支援されている。病状が悪化したときでもホームで暮らしたいとの希望により、処置等に、ご家族も毎日通いながら、ホームで暮らす事が出来た。介護度の高い利用者もおられ、家族の要望等により施設内での終末にも対応していくことにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴やトイレの声がけは、殆ど気が付かないようになされていた。利用者の普段からの身振りなどで判断し、声掛けや誘導方法は優れた観察力により、静に行われており適切に援助がなされている様子に感心した。個人情報等の書類は事務室に一括して保管されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の切羽詰った要望があるときには、他の部署の職員の協力を得ながら、利用者の個性やペースを優先し援助している。色々な部署の職員の協力により、利用者の希望が最大限に叶えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力、希望、個性を最大限に活かし、得意とする事柄を積極的に行えるよう配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ希望に添うよう配慮されている。デイサービス施設の浴室利用も出来るようにしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	施設は開放的で、本人の成育歴、職歴を把握していて、農作業をはじめ、趣味、特技を活かすように配慮されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月、週の計画に基づき、集団外出や個人の外出がある。また利用者の急ぐ要望には、グループホーム以外の関連施設の職員の協力を得て、希望に添えるよう最大限の努力がなされている。またそのような体制が出来ている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	広い敷地内に関連施設が有ることによると思えるが、夜間も玄関の鍵は掛けていない。居室は利用者の希望により掛けている利用者もいる。夜間の見守りのときは前もってスペアキーにより開けて安否確認をすることを了承していただいている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一斉通報装置により消防署に連絡が出来るようになっていて、また警察との情報提供がなされているが、今年度は避難訓練が出来ていない。	○	定期的に避難訓練が行われることにより、職員もとっさの時の行動がスムーズに出来ると思われる。また地震の時に家具の転倒や物の落下がないよう確認が必要と思われるので今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段生活に変わりのない利用者にはケース記録でチェックしている。また個別のチェックが必要と思われる利用者には、個別の水分チェック票により対応されていた。必要により、長い時間を掛けて食事介助がなされていた。よい介助が出来ていると感じられた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造作りでホールの天井が吹き抜けになっていることにより、広広とした空間となっていた。 またテラスの椅子で長い時間、過ごす利用者もあり、ホールの中と外を結ぶ心地よい中間的な空間となっている。 また、テラスから見える自然の野山や田園の風景も利用者にとって懐かしい景色になっていると思えた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台やテレビ、位牌、箆笥など使い慣れた物や希望する物の持込がなされている。自由に持ち込まれており生活感が感じられて落ちける様子がある。		